

令和3年社会生活基本調査結果（生活行動編）

令和5年3月10日
鳥取県令和新時代創造本部統計課

社会生活基本調査は、総務省統計局が国民の生活時間の配分及び自由時間における主な活動について、5年ごとに調査するもので、令和3年10月20日現在で実施した「令和3年社会生活基本調査」のうち「生活行動に関する結果」（10歳以上の国民の5つの生活行動に関する過去1年間の行動結果）が令和4年8月31日に公表され、男女別、年齢階級別を含めた結果について、鳥取県の概要を別添のとおり報告書としました。

（1年間の主な生活行動の調査時期）

1年間の主な生活行動は、令和2年10月20日から令和3年10月19日までの過去1年間の自由時間において該当する行動を行った状況について調査した結果です。この時期は、2回の「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」を含んだ期間となっていました。

鳥取県の結果の概要

「学習・自己啓発・訓練」以外の行動者率は、前回（平成28年）に比べ低下し、特に「旅行・行楽」は大幅な低下となった。

また、「ボランティア活動」は全国5位（前回9位）で、依然として全国でも高い行動者率となった。

行動者率を男女別にみると、「学習・自己啓発・訓練」では、男性は「パソコンなどの情報処理」、女性は「家政・家事」が最も高く、それ以外の項目では男女とも同じ種類の行動が最も高かった。

行動者率を年齢階級別にみると、「学習・自己啓発・訓練」、「スポーツ」及び「趣味・娯楽」では「10～14歳」、「ボランティア活動」では「65～74歳」、「旅行・行楽」では「25～34歳」が最も高かった。

<鳥取県及び全国の項目別行動者率（10歳以上）>

区分		学習・自己啓発・訓練			ボランティア活動		スポーツ		趣味・娯楽		旅行・行楽	
		パソコンなどの情報処理	家政・家事		まちづくりのための活動		ウォーキング・軽い体操		CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞		行楽（日帰り）	
鳥取県	H28	31.3 %	9.9 %	9.7 %	32.2 %	18.4 %	65.2 %	36.9 %	83.1 %	41.5 %	68.7 %	56.2 %
	R3	34.1 %	11.8 %	11.5 %	24.1 %	13.0 %	61.2 %	37.2 %	81.7 %	47.1 %	38.4 %	31.6 %
	増減	2.8	1.9	1.8	-8.1	-5.4	-4.0	0.3	-1.4	5.6	-30.3	-24.6
全国	H28	36.9 %	12.5 %	11.2 %	26.0 %	11.3 %	68.8 %	41.3 %	87.0 %	49.0 %	73.5 %	59.3 %
	R3	39.6 %	16.5 %	13.5 %	17.8 %	7.4 %	66.5 %	44.3 %	86.3 %	53.5 %	49.5 %	40.5 %
	増減	2.7	4.0	2.3	-8.2	-3.9	-2.3	3.0	-0.7	4.5	-24.0	-18.8

<鳥取県の項目別、男女別、年齢階級別行動者率（10歳以上）>

区分		学習・自己啓発・訓練			ボランティア活動		スポーツ		趣味・娯楽		旅行・行楽	
		パソコンなどの情報処理	家政・家事		まちづくりのための活動		ウォーキング・軽い体操		CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞		行楽（日帰り）	
鳥取県	総数	34.1 %	11.8 %	11.5 %	24.1 %	13.0 %	61.2 %	37.2 %	81.7 %	47.1 %	38.4 %	31.6 %
	男	33.3 %	14.6 %	7.3 %	27.2 %	16.1 %	64.8 %	31.8 %	82.9 %	47.3 %	37.7 %	31.5 %
	女	34.7 %	9.3 %	15.4 %	21.2 %	10.2 %	57.9 %	42.2 %	80.5 %	46.9 %	39.0 %	31.7 %
	10～14歳	53.2 %	11.6 %	10.5 %	19.3 %	5.6 %	86.7 %	22.7 %	96.3 %	64.3 %	49.1 %	40.3 %
	15～24歳	50.3 %	17.1 %	17.9 %	16.5 %	7.1 %	78.2 %	33.3 %	94.3 %	82.2 %	48.8 %	36.3 %
	25～34歳	41.3 %	14.2 %	16.9 %	15.0 %	6.5 %	62.0 %	39.6 %	91.6 %	70.8 %	50.3 %	44.1 %
	35～44歳	34.7 %	11.6 %	10.6 %	26.8 %	10.7 %	64.4 %	33.9 %	90.6 %	65.2 %	41.0 %	34.9 %
	45～54歳	31.5 %	13.5 %	8.5 %	27.7 %	13.7 %	61.5 %	38.1 %	82.9 %	54.8 %	35.9 %	30.1 %
	55～64歳	34.4 %	15.2 %	11.6 %	29.3 %	19.8 %	51.5 %	35.2 %	81.7 %	46.4 %	38.2 %	30.2 %
	65～74歳	31.1 %	10.9 %	10.9 %	31.5 %	20.1 %	65.4 %	50.2 %	79.8 %	26.2 %	37.9 %	32.5 %
	75歳以上	18.7 %	4.0 %	8.8 %	17.5 %	10.7 %	43.3 %	32.1 %	57.0 %	7.0 %	22.2 %	17.6 %

【鳥取県の項目別概要】

1 学習・自己啓発・訓練

行動者率は34.1%で、前回に比べ2.8ポイント上昇したが、全国平均(39.6%)より5.5ポイント低く、全国32位(前回35位)であった。

行動者率を種類別にみると、「パソコンなどの情報処理」の11.8%が最も高く、次いで「家政・家事」の11.5%であった。

行動者率を男女別にみると、男性は「パソコンなどの情報処理」の14.6%が最も高かった。女性は「家政・家事」の15.4%が最も高く、男性(7.3%)を8.1ポイント上回った。

行動者率を年齢階級別にみると、「10～14歳」の53.2%が最も高かった。前回と比べると、すべての年齢階級で上昇し、最も上昇したのは「10～14歳」の21.4ポイントであった。

2 ボランティア活動

行動者率は24.1%で、前回に比べ8.1ポイント低下したが、全国平均(17.8%)より6.3ポイント高く、全国5位(前回9位)であった。

行動者率を種類別にみると、「まちづくりのための活動」の13.0%が最も高く、次いで「子供を対象とした活動」の6.5%、「安全な生活のための活動」及び「自然や環境を守るための活動」の4.6%であった。前回と比べると、すべての種類で低下し、最も低下したのは「まちづくりのための活動」の5.4ポイントであった。

行動者率を男女別にみると、男女とも「まちづくりのための活動」(男性16.1%、女性10.2%)が最も高く、次いで男女とも「子供を対象とした活動」(男性6.3%、女性6.7%)であった。

行動者率を年齢階級別にみると、「65～74歳」の31.5%が最も高かった。前回と比べると、すべての年齢階級で低下し、最も低下したのは「45～54歳」の14.2ポイントであった。

3 スポーツ

行動者率は61.2%で、前回に比べ4.0ポイント低下し、全国平均(66.5%)より5.3ポイント低く、全国36位(前回33位)であった。

行動者率を種類別にみると、「ウォーキング・軽い体操」の37.2%が最も高かった。前回と比べると、「ボウリング」及び「器具を使ったトレーニング」を始めとしたほとんどのスポーツが低下した。

行動者率を男女別にみると、男女とも「ウォーキング・軽い体操」(男性31.8%、女性42.2%)が最も高く、次いで男性は「つり」の16.0%、女性は「器具を使ったトレーニング」の7.8%であった。

行動者率を年齢階級別にみると、「10～14歳」の86.7%が最も高かった。前回と比べると、「65～74歳」を除くすべての年齢階級で低下し、最も低下したのは「55～64歳」の10.0ポイントであった。

4 趣味・娯楽

行動者率は81.7%で、前回に比べ1.4ポイント低下し、全国平均(86.3%)より4.6ポイント低く、全国39位(前回39位)であった。

行動者率を種類別にみると、「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」の47.1%が最も高く、次いで「映画館以外での映画鑑賞」の44.7%であった。前回と比べて「遊園地、動物園、水族館などの見物」が15.2ポイント、次いで「カラオケ」が12.2ポイントと大幅な低下となった。

行動者率を男女別にみると、男女とも「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」(男性47.3%、女性46.9%)が最も高く、次いで「映画館以外での映画鑑賞」(男性44.1%、女性45.3%)であった。

行動者率を年齢階級別にみると、「10～14歳」の96.3%が最も高かった。前回と比べると、最も上昇したのは「10～14歳」の6.2ポイント、最も低下したのは「45～54歳」の5.2ポイントであった。

5 旅行・行楽

行動者率は38.4%で、前回に比べ30.3ポイントの大幅な低下となり、全国平均(49.5%)より11.1ポイント低く、全国42位(前回31位)であった。

行動者率を種類別にみると、「行楽(日帰り)」の31.6%が最も高く、次いで「観光旅行(国内)」の15.1%、「帰省・訪問などの旅行(国内)」の9.5%であった。

行動者率を男女別にみると、男女とも「行楽(日帰り)」(男性31.5%、女性31.7%)が最も高く、次いで「観光旅行(国内)」(男性15.6%、女性14.7%)であった。「観光旅行(国内)」を除くすべての種類で女性が男性を上回り、女性の「帰省・訪問などの旅行(国内)」では9.9%で男性(8.9%)より1.0ポイント高かった。

行動者率を年齢階級別にみると、「25～34歳」の50.3%が最も高かった。前回と比べると、すべての年齢階級で低下し、最も低下したのは「35～44歳」の37.4ポイントであった。